

B-60 電気毛布使用時の寢床気候について

和洋女大文家政 ○田口秀子 宮川豊美 川村一男

電気毛布の使用について、寢床内気候温度は、就寝後30分で安定状態がみられ、以後就寝中の寢床内温度変化は少いことを認めた。

今回は、電気毛布の温度調節ダイヤルによる寢床内気候変化について追究した。

実験は、10℃の人工気候室内にて環境条件を設定した。使用した寝具は、敷布団2枚、毛布1枚、洋掛布団1枚及び電気毛布である。なお、寢床内の温度測定は、皮フ温測定器を使用した。また、寢床内温度の測定は敷布団下部9ヶ所及び電気毛布内側9ヶ所で行い、通電後10分毎に90分間の測定を行った。電気毛布の温度調節ダイヤルは、低温、適温、高温の三段階である。

被験者なしで低温、適温、高温につき電気毛布使用時の寢床内温度を測定した結果、低温では温度安定が顕著で、30分を経過しても恒常であるが、適温、高温とも30分で急上昇し、時間至過と共に寢床内温度は上昇した。また、電気毛布と敷布団との間では、適温、高温になる程温度の開きがあり、上昇の至過は電気毛布側に比して、敷布団側では緩慢である。被験者を就寝させて電気毛布と他の寝具との併用をみると、適温、高温とも寢床内温度は30分で急上昇を示した。また、低温では、寢床内温度の安定が顕著で、これは他の寝具併用時にも比較的安定の傾向を示した。

寢床内CO₂は、低温<適温<高温の順に高くなり、この傾向は併用寝具の多い程増加を示した。このことから、電気毛布の使用については、低温で使用し、しかも併用寝具の少ないことが好ましい。